

今にも天の川が溢れそう。ボートが停泊
している浦内湾の海岸で撮影

西表

Iriomote Island

Photo = Takaji Ochi
Model & Text = Kaoruko Inou
Special Thanks = Diving team Unarizaki Iriomote
Edit = Harumi Yamamoto
Design = Panari Design

星芒

注ぐ、

日中は太陽の光、夜は星の明かりと

昼夜問わず宇宙からの光の恩恵を授かる西表島。

それは、ダイバー憧れの地

オガンの水中も例外ではなかった。

西表石垣国立公園が条件付きながら

「星空保護区」に認定された。

2018年のWEBマガジンでは

オガンと星を巡る取材レポートをお届けしよう。



ocean+α

©ocean+α ウェブマガジンの二次配
布および画像・文章の複製、二次使
用を禁じます

光の 宮殿

太陽の恩恵に

身をゆだねる。

西表島から約15km離れたところに、日本有数の海鳥の繁殖地として知られている仲ノ御神島（通称オガン）という無人島がある。その西側に位置するポイントが、この「光の宮殿」だ。夜の間、淡く輝く星空の下で暗く眠るオガンだが、昼間は太陽によってその端麗さが明かされる。

海の中に入ると、いくつも似たような入り口が現れる。ガイドなしで潜ったときには、迷ってしまったほどだ。目前に現れ

る通路には陽の光が差し込み、白砂の海底を煌びやかに照らしていた。メインの洞窟へは、正午くらいに潜ると太陽がちょうど真上に来る。光の中に入り上を向くと、そのまま吸い込まれそうな感覚を覚えた。

「光の宮殿」の静けさが好きだ。いつ潜っても水はクリアで、静謐な^{せいじつ}空気が流れている。今回の取材でも2度ほど潜らせてもらった。



- 01* 夜にはサンゴのかげらを集めて寝床を作って眠るオビテンスモドキの幼魚
- 02* 星砂をかき出していたカンザシヤドカリ
- 03* ヤイトギンボの幼魚。ギンボの仲間はたくさん生息している
- 04* ツユベラの幼魚。白模様は子ども特有
- 05* 正面から見ると犬みtainなテンテンウミウシ
- 06* 成魚からは想像できないオシャレさを放つカムリベラの幼魚

光の宮殿



星の砂の

ちいさな住人たち。

「光の宮殿」を出たところの根の上は、実はほとんどが「星の砂」で覆い尽くされていることをご存知だろうか。

宮殿内で太陽の光を浴び、視線を落とすと星が煌めく。なんと素敵な1ダイブだ。その星と共存しているちい

さな生き物たち。特に、カンザシヤドカリが、波に揺られて穴の中に入った星の砂をかき出す姿は愛らしい。何だか、星の砂を「はい、どうぞ」と、差し出されている気さえした。

星芒注ぐ、西表



01



02



03

マグロと

タイガーの交錯。

「オガンへ行けた!」というのは、もはやうなりぎきに潜りにくるゲストにとってステータスとなっている。

というのも、オガンへ行くには天気にも海況にも恵まれる必要がある。「いまとなつてはうなりぎきのほぼ独占ポイントとなっているにも関わらず、年間70回程度しか行くことが叶わないんです」と、メインガイドの森脇純一さんは話す。

中でも人気ポイントは「三ノ根」だ。通常のマグロよりもふた回りほど大きく成長したイソマグロやカスミアジの群れ、運が良ければジンベエザメやタイガーシャークなどの大物生物も姿を現す。限られた取材日程の中だが、今回も奇跡的な出会いを呼び寄せることができた。

100匹を超えるイソマグロの編隊を撮影していると、視界の右端にマグロにしては尾が長く、ゆらりと身体を左右に振りながら近づいてくる生物がいた。——サメだ。

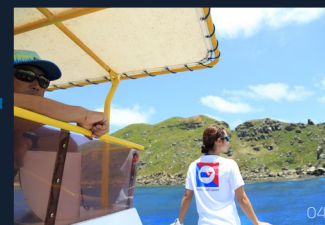
視界をロックオンして見つめると……タイガーシャークだ! 思わず声をあげそうになった矢先、根に捕まっていた森脇さんが「タイガー!」と叫んだ。ガイド陣もだいたい興奮していたようだ。

タイガーシャークは、「僕もマグロの仲間になりたかったんだい」とでも言い

たげな感じで、その編隊の先頭に合流。少しイソマグロと歩調を合わせて泳いでいたものの、すぐに海の彼方へ去ってしまった。

タイガーシャークはシャイと聞く。今回すぐに立ち去ったのも、その性格からだろう。恥ずかしそうに去って行く姿も、イソマグロの編隊の先頭で歩調を合わせて泳ぐ姿もかわらしく見えた。(サメをかわいと思う感覚が一般的ではないことは百も承知だが)

「三ノ根でタイガーを目撃するのは、年に3回程度。ただ、マグロとタイガーが同時に泳いでいるのを撮影したのは見たことがないです」と森脇さん。こういう奇跡が度々起こるから「オガンに行けばすごいものが見られる」という“オガン最強伝説”があり、またオガンリピーターが後を絶たないのだろう。



04



05

三ノ根

01* タイガーシャークがイソマグロの編隊に。これがあるからやめられない!

02* イソマグロが見せる圧巻のトルネード

03* 100匹を超えるイソマグロがエントリーポイントでお出迎え

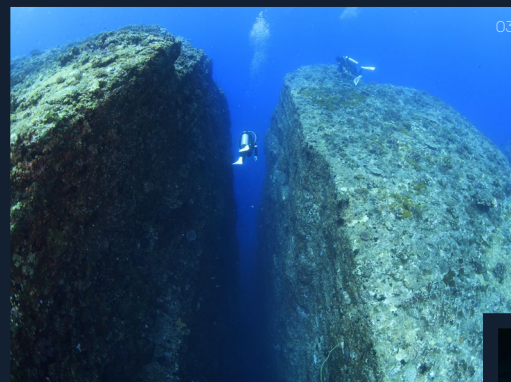
04* オガン島に停泊させ「三ノ根」の海況を伺う

05* 大満足でエキジットするオガンリピーター

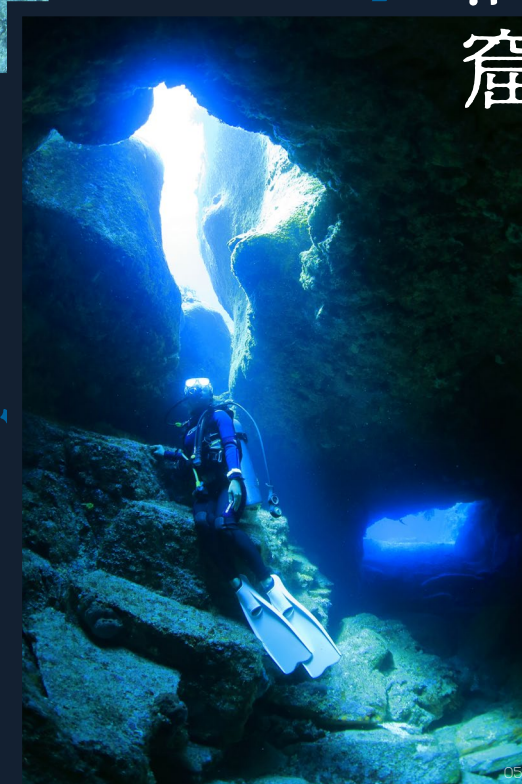
東ノ根



東側は



洞窟



遺跡を思わせる光景。

東ノ根のこと

「オガンのはじまりは、『東ノ根』だ」。そう話してくれたのは、うなりぎきオーナーの吉坊こと仲里吉一さん。すでに40年以上も昔のことだ。「今みたいに大きい船もエンジンもなかったから、本当に天気の良いときしか来られなかった。でもトカキン、バラクーダ、ロウニン、カスミアジ、なんでも大量にぐちゃぐちゃ生息していたオガンがたまらなくおもしろくてね。それで『東ノ根』からはじまって、『一ノ根』

『二ノ根』『三ノ根』ってどんどん開発していったんだよ」

当然のことだが、誰かが見つけて開発したからダイビングポイントやその歴史がある。一方で、開発した本人や長年の歴史を知っている人の話を聞くことはめったにない。貴重な話が聞けるのも、うなりぎきで潜るの魅力の一つだろう。

「東ノ根」には初めて潜った。大きな根が何個も連なっているのが特徴だが、潮がその壁にほぼ垂直に当たっているときにしか潜ることができないため、運を味

方につけないと体験できないポイントだ。

底の見えない亀裂の入ったような巨大な根に捕まって、回遊するイソマグロなどを見る。このポイントを初めて見つけたときの吉坊の話を自分に置き換えて想像したら、海の中で興奮が冷めやまなくなってしまった。

洞窟ポイントのこと

運良くオガンの東側に来ることができたので、「洞窟ポイント」にも潜ることができた。洞窟内は、宮殿を彷彿させ

るような地形。窓辺にある石の階段に座って夜の星や景色を眺める……まるで気分は塔の上のラプンツェル。

洞窟の外に出れば、これまた階段状で、まるで海底遺跡のよう。直線的な造形が、どことなく人工物のようにも見え、もしかしたら本当に古代文明があったのではと想像が膨らむ。東側を狙えるならぜひ行きたいポイントだ。

- 01* まるでギリシャ神話のケルペロスのような
- 02* ダイバーのエアの動きから流れが強いことがわかる
- 03* どのようにしてこんな亀裂が入ったのか謎が多いポイント
- 04* 洞窟を抜けるとさらに人工的な空間が登場する
- 05* 宮殿を彷彿とさせる異空間

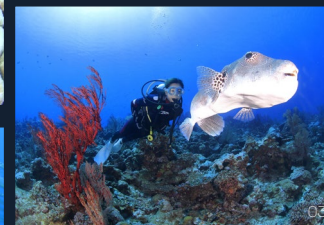
星芒注ぐ、西表



オガン 周辺

西表の底力を

体感せよ。



- 01* 「かめかめポイント」では7匹の大きなウミガメに遭遇
- 02* ホソカマスとアカネハナゴイの珍しいコラボレーション
- 03* ヤギに隠れて暮らす人懐っこいモヨウフグ
- 04* 立てるほどの浅瀬ではニザダイが食事中
- 05* 水深5mでバラクーダの群れに出会う

沖ノ御神島から少し沖に出たところにある「三ノ根」付近は、いくつもの隠れ根により構成され、大物を見に行くというギャンブルスタイルがウリ。一方で、オガンの島周りも負けてはいない。隠れ根付近にあるような強い流れはないため、ゆったりとしたダイビングを楽しめるにも関わらず、ゴマニザ、ホソカマスとアカネハナゴイのコラボ、イソバナに隠れるように暮らすモヨウフグなど、多様な生物に出会えた。

最近できたポイントはあるかと、寡黙な森脇さんに尋ねると「『かめかめポイント』ですかね」と、はにかみながら小声で答えてくれた。ネーミングからしてネタになると思い、軽い気持ちで潜ってみた。すると、20分の間に7匹のウミガメに遭遇。「かめかめポイント」の威力を見せつけられた。ウミガメ好きにはたまらない。

そのあとは、浅瀬でバラクーダが

見られるというので、探しに行くことに。取材特有かもしれないが、スノーケリングで森脇さんがバラクーダを探しに行ってくれ、取材班は準備をして船上待機。「ここ、ここ！この流れ！」との指示で飛び込むと目の前をバラクーダがゆると通り過ぎた。

次々と見せつけられる西表の底力。西表のガイドが胸を張ってこの海が一番だと言うのがわかる。



星芒注ぐ、西表

ことサンゴの

世界にはサンゴが見られる地域は山ほどあるが、ここまで透き通った水の中で、カラフルなサンゴが見られる海はどのくらいあるのだろうか。

取材中、テレビを見ていたらとても残念なニュースを目にした。

石垣島と西表島周辺の海域に生息するサンゴが2008年と比べ、大きく減った。特に西表島周辺では、サンゴで50%以

上が覆われている海底の面積が、97ヘクタールから2ヘクタールへと約98%減少したという(2018年5月17日環境省発表)。

もし、「サンゴがきれいなところは」と問われたら、私は西表島と答えるだろう。このサンゴを初めて目にしたときは、言葉では言い表せないくらいの感動を覚えた。「フィンでサンゴを蹴ってはいけない」という言葉をちゃんと理解したのも西表

の海だった。

「シークレットガーデン」という群を抜いてサンゴが美しかったポイントも、「2016年の白化現象以降は戻っていない」と森脇さんは言う。ただ、「まだまだきれいなところはたくさんありますよ」とサンゴが水面近くに群生しているポイントへ案内してくれた。紫、青、白、黄色、ピンク、さまざまなサンゴが群生していて、私が一番お

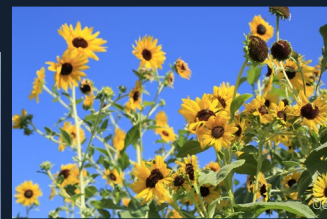
気に入りのエダサンゴも元気に生息していた。息を呑むほど美しいとはきっとこのことだ。

サンゴこそ、太陽の恵みがないと育たない。サンゴひとつとってみても西表が太陽の光に恵まれているのがわかる。きっとこのサンゴを見たら、ダイバーには何ができるのかと思わずにはいられないだろう。

陽光が育む豊かなサンゴを未来へつなぎたい

ダイバーには何ができるのだろうか？





- 01* 黄色い船が夢のオガン船だ。
青い海に黄色がはえる
- 02* スタッフの誕生日にゲストが石垣島からケーキを持って参上! 愛されるスタッフたちがたくさん
- 03* ショップの周りには花がたくさん
- 04* 円形のイルマレのレストランと星空
- 05* ボートまでの道は今から始まるダイビングへのワクワク街道
- 06* しっかりとした若手の揃ううなりざき西表

ダイビングチーム

うなりざき西表のこと。

西表島最大の規模を誇る老舗ダイビングサービスで、「オガンに行くなら、うなりざき!」と言われるほど、オガンでのダイビング回数が多い。男女ともに若くして西表でのガイド経験が豊富なスタッフが揃っている。

ジェット推進機を搭載した62フィート、定員各約40名、温水シャワー、水洗トイレを完備した大型ボート3隻と、定員16名、42フィートの小型ボート1

隻の計4隻を駆使して、多くのダイバーのレベルやニーズに合わせたダイビングを提供してくれる。宿泊施設もイルマレウナリザキ、ヴィラうなりざきと充実していて、快適なダイビングライフを満喫することができる。

近くには、地元の人も通う居酒屋もあり、タイミングが良ければ、島唄なども聞くことができるかも。

星の撮影も可能で、特に新月周りを狙えば満

天の星に出合えるだろう。ツインルームのある塔からはベランダからでも簡単に星の撮影が行えた。2018年3月に国際ダークスカイ協会によって日本で初めて、「星空保護区」に条件付きながら認定された西表石垣国立公園。表紙は、うなりざきのダイビングボートが停泊している、浦内湾の海岸で撮影した。

まさに海の中も夜の空も、星芒注ぐ、西表だった。



DivingService 8 Stay

ダイビングチームうなりざき西表店

〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町字上原10-172

Tel.0980-85-6146 Fax.0980-85-6844

<http://www.unarizaki.com>